大阪府社会福祉協議会・保育部会（大阪府保育協議会）

保育おおさか

No.498

平成29年2月1日

発行人　永野 治男　　編集人　齊藤 和正

大阪市中央区中寺1丁目1-54
TEL.06-6762-9001　FAX.06-6768-2426
http://www.ans.co.jp/u/osakahoiku/

海外研修報告 in オーストラリア

安心・安全な環境で情緒豊かに育てる

オーストラリアで13カ園を展開する保育施設「KOOL KIDS」に訪問しました。乳児（6～24週）、幼児（15～24カ月）、年少（2～3歳）、年中（3～4歳）、年長（4～5歳）のクラスに、40～70人が通っています。ゴールドコーストのゆったりとした街並みと草木に囲まれた温かみのある雰囲気の施設です。

園庭で集合写真

保育理念

・文化・宗教・家族の信念・社会的経済地位・性別・能力にかかわらず、すべての関係の中で信頼と尊敬と責任を育てる。
・子どもの必要性を最重要視し、すべての声を聞き取り、すべての可能性を実現するように、オープンでフレンドリーな環境を提供する。

最も大切にしていることは、①安心②安全③健やかな成長④家族とのコミュニケーションであり、利用者を〝一つの大きな家族〟として関係構築に努めることでした。

子ども中心の早期学習指導

「EYLF」プログラムで定期的に子どもを観察し、その時々の興味関心に基づいて活動を計画。発育・発達の促進を目指しています。

保育ルームでは、未満児と以上児で施設が分かれ、発達状況に応じて、上のクラスへの移行もあるようです。進級時は前担任が必ず一人一緒にもちあがるよう配慮しています。

また、外国語教育にも取り組み、15カ月以上の子どもたちに週2回日本語教育を行っています。日本にある姉妹園とも「*Skype（スカイプ）」を利用して交流しています。

外観のようす

日本のような運動会や発表会といった保護者が見る行事はなく、日々の保育を重視。オーストラリアの伝統的な催しにちなんだ行事の取り組みをしています。

日々の保育では、午前に15分程度、テーマに基づいて学んだ後、自由にコーナーを選択して、学びの延長となる遊びを展開していく工夫が見られ、子どもたちはわたしたちを気にするようすもなく、テーマに基づいた学びに集中して自由に遊びを楽しんでいました。

訪問にあたり、日本の伝統ある手作りの玩具をお土産としてもって行きました。日本語中心ですが遊び方を伝える中、言葉が通じなくても理解しようとし、興味を示して話しかけてくれる子どももありました。

＊スマートフォン、パソコン等を使い、通話・ビデオ通話を無料で使用できるサービス。

（2面に続く）

デビューから25年、放送界そして日本の芸能史において一時代を築いたスーパーアイドルグループSMAPが昨年末をもって解散しました。

年が明け、テレビやニュースでは「SMAPが今はもうないなんてやっぱり信じられない」「解散の実感は正直ないですね。解散したのかもしれないんですけど」などのコメントが聞かれ「SMAPロス」なる言葉も見受けられます。

私は特段ジャニーズファンでもSMAPファンでもありませんが、彼らの出演番組はこの20年間ほどなんとなくずっと見ていたように思います。

最後のSMAP×SMAP（スマスマ）のTV放送を見ていて、彼らの楽曲がいかに私の日常に寄り添っていたかに気づかされ、もうこのメンバーが歌う姿はグループとして同じ形では見られないと思うと、少し残念で寂しくなってしまいました。

しかし、いつか彼らがさらにパワーアップして再び〝集合〟する時を信じて、今は「ありがとう、SMAP！」と言いたいと思います。（編集委員Y・T）

（1面からの続き）

安全な環境で安心して過ごすことで情緒の安定や、異文化の壁もなく全てを受け入れるようすが見られたのは、理念に基づいた保育が行われているからだと感じました。

裸足で遊べる安全な園庭

園庭には沢山の遊具が置いてあり、どれも子ども心をくすぐるようなものが多く、大人も見ていて楽しい気もちになるものばかりでした。

オーストラリアは裸足で歩く習慣があるとのことで、子どもたちが裸足でも安全に楽しく遊ぶことができるように柔らかい素材の床にしたり、登りやすい高さの遊具にするなど、随所に工夫が施されていました。

さまざまな文具

また、日差しが強いオーストラリアでは、紫外線が日本の約5倍～10倍ほどあるそうです。

そのため、園庭にサンシェードをヨットの帆のように張り巡らせ、紫外線を遮断することや、園庭で遊ぶ際には必ず日焼け止めを塗ってから外に出るなど、子どもたちが安全かつ健康的に過ごす配慮を行っています。

このほかにも、園庭の横で小鳥の飼育を行ったり、ガーデニングスペースがあったりなど、子どもたちが生き物や自然の草花とふれあいながら日々過ごすことができるようにされていました。

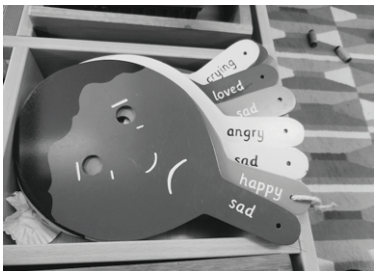
いろいろな遊びに想像広がる楽しい保育室

保育室も園庭と同様、いろいろな工夫が見受けられました。壁面や玩具は子どもたちが見やすいよう、遊びやすいようにカラフルな色使いがされており、まるで色エンピツの世界に入り込んだような楽しい空間でした。

自然物のコーナー

クラス毎に遊びの種類に応じてコーナーが同じように設けられ、各年齢に応じた内容が盛り込まれています。子どもたちが思い思いに製作する「コラージュセンター」では、さまざまな自然の素材を用いたりお互いの気もちを顔と文字で表現した玩具などが用意され遊べるようになっています。

また、ドクターやプリンセスなどのコスチュームや小道具が置かれている「ドリーミングコーナー」では、注射器・聴診器など、実物に近い物を使うことで、イメージしやすく遊びが広がるように工夫がなされていました。



気もちを表現した玩具

「ブックコーナー」には、たくさんの絵本が並べられ、ソファーや椅子が設けられているなど、子どもが自分のしたいことを考えながら遊ぶことができる、環境作りが行われていました。

なりきり遊びの衣装

このような環境の中で、身体・言語、表現・社会性、情緒・対人能力などが育まれており、子ども自身が興味・関心を示す内容となるよう工夫されていました。

（鳳西こども園A・M）
（がんば白鷺保育園Y・N
〃　S・M）
（第2長尾保育園J・T
〃　A・Y）
（ゆめの子保育園C・U
〃　M・S）

4月から新会員システムがはじまります

（保育部会のICT化について）

保育部会は現在約660カ園の保育園・認定こども園の皆さまに、部会運営や事業案内、各種情報提供等を行っております。昨今の社会福祉法人制度改革や多様化する保育の福祉課題と保育施策を受け、今後より迅速かつ的確な情報提供が求められております。

そこで、各種案内や情報提供を来年度から「保育部会会員管理システム」を導入し、電子メールとホームページを用いた運用に切り替えることとなりました。

詳細はホームページをご確認いただくことが基本的な運用方法となります。

これによりホームページ（会員専用ページ）から、いつでも情報閲覧できるようになります。FAXの送信エラーや通信費の削減、ペーパーレス化にもつながります。

他方、昨年度から大阪府社協で取り組んでいる「大阪しあわせネットワーク支援システム」をさらに充実させ、「社会福祉法人による地域における公益的な取組」の見える化をすすめるとともに、新システムにおいても情報共有をはじめ、新たな事業展開を検討し、更なる充実を図ってまいります。（事務局）

かけがえのない一人ひとりを大切に

友達を思いやる心育てる

豊中市

保育所

ひかり保育園

ひかり保育園は、阪急曽根駅から徒歩5分の閑静な住宅街の中にあります。駅から近いということで、交通機関を利用されている保護者の方には、喜ばれています。

本園は1965年に母体の曽根キリスト教会が、ひかり幼児園をつくりスタートしました。1993年に豊中市委託の簡易保育所となり、2005年には大阪府の認可保育所となりました。定員35人の小さな保育園で、アットホームな環境の中で保育を行っています。発足から現在まで52年の歴史があり、親子2代で本園を卒園した方もおられます。

施設外観

保育方針として、神様が造られたかけがえのない一人ひとり、自分も友達も大切にし、個性をのばしつつ意欲・やる気を育てることを掲げ、小さな集団の良さとして、一人ひとりに寄り添い、一人ひとりの思いを受け止め、一人ひとりを大切にする保育を心掛けています。

また、幼児クラスでは専門指導員による体育遊びや、図書館司書によるお話し会、年長児クラスでは英会話の指導を保育の中で行っています。

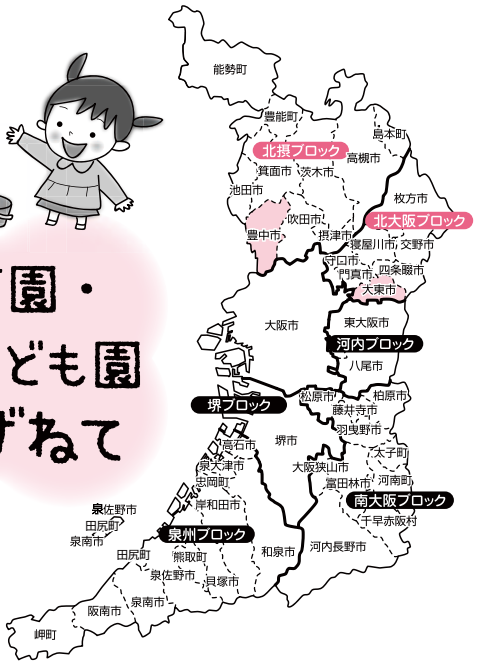
クラス別の保育をしていますが、大きい子どもが小さい子どものお世話をしたり、小さい子どもが大きい子どもを慕う、ほのぼのとした姿が見られます。

また、友達が病気で休むと友達のために「早く良くなるよう、みんなでお祈りしよう」と、みんなで心を込めて祈る姿に、「友達を思いやる心が育っていることを感じさせられます」と、安達晴子園長はおっしゃいました。（編集委員Y・T）

みんなで給食おいしいな

保育園・認定こども園をたずねて

553



上三箇保育園はJR学研都市線住道駅から徒歩20分。田んぼが広がるのどかな環境の中にあり、定員は120人です。

園庭には、どんぐり・かりん・びわ・みかんなど四季折々の果樹があり、子どもたちは、実を見つけるたびにうれしそうな声をあげています。木々にやってくる鳥が園庭に種子を落とし、シロツメクサも咲くようになりました。首飾りを作ったり、蝉取りやだんごむし探しなど、木があることで子どもの活動がさらに広がっているようです。

芝生のある園庭

なすびやピーマンなどの夏野菜も園庭に植えて、収穫までの過程を経験。収穫物は、給食に使うとともに家にもち帰りも行い、食育への関心も高めています。

のどかなまわりの環境を活かして、お散歩にもよく出かけます。田んぼのあぜ道を歩きながら虫や草花を見つける小さな発見を、いろいろなコースで楽しんでいます。また、歩いて20分ほどの深北緑地では遊具や原っぱで思う存分、身体を動かしています。

以前から園内のホールで行っていた2万個のカプラを使っての遊びを、最近は近隣の保育園にも声をかけて行い、5歳児の交流の場になっています。存分にあるカプラを通じて、違う園の子どもたちが、相談し協力する姿も見られてきました。他には、お買い物ごっこも他園と一緒に行い、遊びを楽しむ中で、小学校へのスムーズな接続につながっていると感じました。

ゆったりと語られる荒木悦子園長の姿に、よい環境でのびのびと育つ子どもの姿が目に浮かびました。（編集委員A・O）

園舎に桜がはえます

のどかな環境を活かしたいろいろお散歩コース

2万個のカプラで他園の子どもたちと遊び交流

大東市

保育所

上三箇（かみさんが）保育園

身体づくりを大切に

毎日のリズム運動や和太鼓で元気に育つ

保育所

堺市　ひまわり保育園

ひまわり保育園は、JR鳳駅から徒歩約10分、周りに新興住宅が目立ちますが、一歩中に入ると砂利道や畑が広がるのどかな風景もみられる地域です。

保育では子どもたちの成長・発達の基礎である身体づくりを大切にしています。散歩や外あそびで、だんごむしなどをさわったり、どんぐりや落葉などを拾ったり自然とふれあうことで、子どもの感性を育んでいます。また、リズム運動も毎日の保育の中に位置づけ、土踏まずの形成や、姿勢を良くしたり、脳の発達によい刺激となっています。

和太鼓にも力をいれられており、長田大輔園長ご自身が指導されています。太鼓は全身運動なので体幹が鍛えられ、リズム感が身に付きます。発達のゆっくりな子や障害のある子もみんないきいきと太鼓を叩き、音を合わせることで協調性や達成感も味わえます。運動会や発表会で、年長児は毎年元気な掛け声で太鼓を叩き発表をしています。

リズム運動で身体づくり

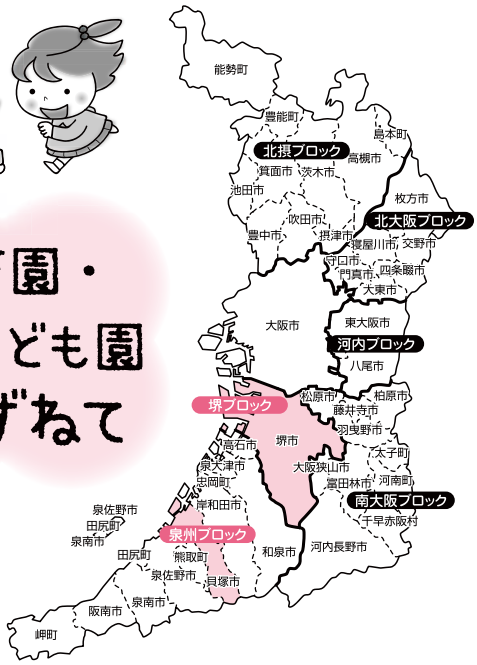
食育にも積極的に取り組まれており、給食で大切にしていることは、和食中心のだしを効かせた薄味で、できるだけ国産の原料を使うようにしています。クッキング保育では時間をかけた取り組みをしており、今年の年長児は1年間を通して、うどんづくりに挑戦。つくるたびに、おいしさが増したそうです。また味噌づくりや梅干しなど変化のある素材にも取り組んでいます。

最後に「家庭的な環境づくりを意識して、その中でよくあそび、よく食べて成長・発達していってほしい」と長田園長は優しい笑顔でおっしゃいました。

（編集委員K・K）

運動会での和太鼓

保育園・認定こども園をたずねて 554



思いやりのある子に育ってほしい

多くの異年齢間交流に取り組む

保育所

貝塚市　脇浜（わきはま）保育園

脇浜保育園は平成27年に創設60周年を迎えた地域に根ざす保育園です。二色の浜公園近くに立地し恵まれた環境の中、日々のびのびと保育を行っています。

社会福祉法人としての使命や相互扶助の理念をもとに、家庭的な保育を基本方針とし、思いやりのある子の育成に特に力を入れています。5歳児が年下の子のお世話をするスマイル活動、全園児が助けあいながらひとつの目標を達成するファミリア活動など、多くの異年齢間交流で子どもたちの意欲や優しさを育んでいます。

保育園外観

水間鉄道を利用し、頑張って山道を歩くことも目的としたみかん狩り、そうめん流しや剣道の指導など、日本の伝統を大切にしつつ、育児相談や体験保育の受け入れなど、時代のニーズに合った取り組みも進めています。地域との関わりでは、独居の高齢の方々対象ランチの会や障がいをお持ちの方々の通所施設主催の秋祭りに参加したりと、種別の枠を越えた交流を意識しています。山田尚子園長は「子どもたち、地域の方々の笑顔に出会えるこういった取り組みを一つでも多くしたい」と話されました。

創設当初、山田園長の祖父である先代理事長が大きく羽ばたく法人、施設になるように思いをこめて、クラス名を「かもめ」「ひばり」「つばめ」などの、鳥の名前をつけたそうです。

最後に「社会福祉法人制度改革がスタートする正に酉の年の本年。子育て支援のあり方について原点に立ち返り再認識し、今後向かうべき方向をしっかりと見定め、大きな飛躍の年にしたい」と山田園長はおっしゃいました。

（編集委員N・N）

真剣な眼差しでエイッ！ヤァ！

シリーズ●認定こども園になって

第３回

移行、２年目の所感

津之江さくら保育園

―― 北摂ブロックより ――

「社会福祉法人育成福祉会津之江さくら保育園」が保育所から認定こども園に移行して、２年目を迎えました。

35年間続いてきた保育所から認定こども園に移行した大きな理由は二つあります。

まず一つ目は、国の方針・政策が保育所から認定こども園よりにシフトしていっていると判断したからです。消費税が平成31年に現行の８％から10％に上がると予定されていますが、消費税の増税分に関しては社会保障の充実に充てることが決まっています。待機児童の問題が喫緊の課題となっている昨今、この問題を解決するために国はより多くの子どもを受け入れることができる枠を増やすことに力を注いでいます。

このことから、増税した分の税収に関しては子ども・子育て関連、特に認定こども園関連に多く充てられると予想されます。こういった理由から、国の方針・政策が保育所から認定こども園に徐々にシフトしていく場合、保育園として存続しても情勢に置いていかれるのではないかという危機感を感じました。

二つ目は、園長が高槻市私立保育園連盟の会長をしているからという理由です。会長の園自らが率先して認定こども園に移行することで、他の私立保育園が移行しやすい環境が作れると考えたからです。

以上の理由から、本園は認定こども園に移行しました。

◇

認定こども園になるメリットは、保育所のときと比べ、収入が増加したことです。保育所のときは「運営費」という名前でしたが、認定こども園になると「施設型給付費」という名称に変更になります。保育所のときと比べ、給付費が２倍３倍になったというわけではありませんが、認定こども園になってから収入が増えたのは確かです。

そのほか新制度上、18時から延長超過分を集金できるようになったことです。新制度施行前には18時45分からが超過分集金の対象でした。認定こども園になり、18時から超過分を集金するようになると、18時を過ぎて預かっている子どもの数が減少していきました。そのため、居残り保育士の負担軽減につながっております。

デメリットは、事務量が増加したことです。その一つに保育料の管理があります。保育所と認定こども園との大きな違いの一つに、保育料の回収の方法の違いがあります。

認定こども園になると保護者と直接契約という形になるので、保育料は市を介さずに保護者から直接集金することとなります。

認定こども園になって２年経ちますが、幸いなことに、本園では現在まで、滞納者ゼロという数字を達成できております。

しかし、他の認定こども園では、回収に苦慮しているという話も聞いております。保育料が回収できないということは、その分を園が負担しなければならない危険性があるということです。保育料をきちんと回収することは、認定こども園にとって重要な課題の一つとなります。

また、子どもの保育必要量が認定されたことも変化の一つです。具体的には、保護者の１カ月当たりの就労時間が１２０時間以上であれば原則として保育標準時間認定、１２０時間未満であれば原則として保育短時間認定として認定されます。そのほかさまざまな条件はありますが、基本的な基準は保護者の就労時間となっております。

保育標準時間認定は11時間、保育短時間認定では８時間子どもを預かることになるのですが、この標準・短時間認定というのは頻繁に変わります。子どもの認定が変わるたびに保育士全員に情報を共有させる労力や、保育料もその分同時に変更されるので管理が大変になってしまいます。

頻繁に変わる標準・短時間認定は、保護者のニーズに合わせられる良い制度とは思いますが、施設側からみれば、もう少し改善できないものかと思います。

当園は幼保連携型認定こども園ですが、現在、１号認定の子どもの保育は受けておりません。これは高槻市の認定こども園全園に共通していることです。

その理由は、待機児童の問題を解消するためで、就学前の待機児童のうち、０・１・２歳の未満児が多くの割合を占めているため、３歳以上の１号ではなく、待機児童の多くを占める未満児をより多く受け入れています。

このような理由から現時点では、１号認定を預かればどのようになるかということは記載できないので、省略させていただきます。

移行にあたり保護者の方々には、混乱を避けるためにわかりやすく説明することに努めました。園の運営に関しては、１号認定の子どもを預からないので、基本的に今までと変わらないということ、18時から延長保育の料金が発生すること、保育料は市でなく園に支払っていただくこと。この三つを中心に説明いたしました。

◇

子ども・子育て支援新制度の開始から日が浅いことから、制度が周知されていないことや、子どもにより良い保育を提供するためには、標準・短時間認定の制度を含め、さらなる精査が必要と思われます。

（津之江さくら保育園　Ｍ・Ｓ）

ブロックだより

OSAKA

堺

保育士さん、ありがとう!!

昨年11月5日にホテル・アゴーラリージェンシー堺のロイヤルホールで、認定こども園、保育園で働く職員を対象に『保育士さん、ありがとう!!』をNPO法人さかい民間教育保育施設連盟主催で、一生懸命に頑張っている職員に「毎日お疲れ様、ありがとう!」という感謝と慰労を兼ねて開催しました。

参加83カ園から総勢937人という盛大なイベントとなり、ホテルで一番広い会場にもかかわらず人の多さに狭く感じるほどでした。

永野治男会長の開会のあいさつではじまり、竹山修身堺市長の乾杯の発声でイベントがスタート。堺市長には、ほとんどのテーブルを回り写真撮影に応じていただきました。

後半は、ブラジル・リオオリンピックが開催されたこともありサンバダンサーとシンガーによる、歌やダンスなどのライブが会場を盛り上げてくれました。

日頃から頑張ってくれている職員のみなさんと一緒にサンバを見たり、踊ったり、会話を楽しんだりした時間がアッという間に過ぎました。参加者からは楽しかったとの声をたくさんいただきました。

盛況なようす

運営にかかわっていただいた先生方のおかげで良いイベントとなりました。本当にありがとうございました。

（編集委員K・K）

泉州

ふれあい遊び・からだほぐし体験

「からだ・こころ・リズム～ふれあい遊びから」をテーマに、1月7日、岸和田市総合体育館で、子ども情報研究センターの天野忠雄氏を講師に迎えた今年度最後の研修会に、250人が参加しました。

こころとからだは分けて考えられないものであり、五感（見る・聞く・味わう・臭う・ふれる）のうち「ふれる」だけは全身を使うものであると話されました。この「ふれる」について、ふれあい遊び・からだほぐしを体験しました。

参加者全員で大きな2重円になり「もしもしかめよ」の歌のリズムに合わせて背中をさする背中ほぐしを体験し、「ふれる」相手の温もりを感じ安心して心もほぐれることを学びました。

また、子どもたちに人気の「もこもこ」（谷川俊太郎作）を使い絵本のことばのイメージに合わせて体を動かしました。全身を使った天野氏の動きをマネし笑いが起きたりと、違う絵本の世界を楽しめました。

さまざまな遊びが紹介され、アッという間の2時間でした。初めて会う参加者同士、遊びを通して自然と手をつなぎ、会話が生まれ、喜び楽しさを共有したことで、こころとからだがほぐれたように思います。

子どもたちのこころとからだが健康であるために「ふれる」ことの大切さを感じた研修でした。

（貝塚南保育園Y・K）

全身をいっぱい使って表現をします

さんぽ

保育園の使命は人間としての基礎を育む環境 大事に守っていきたい

河内ブロック

平成二十九年元日の朝日新聞の「耕論」にとても感慨深い内容がありましたのでご紹介します。

霊長類学者山際寿一先生は「人類の進化の歴史において狩猟具をもったのは50万年前、大きな獲物を協力して狩るようになったのは20万年前です。人類の歴史のほとんどは、肉食獣から逃げ隠れし、集団で安全を守り合う時間でした。安全イコール安心です。だから人間の体の奥底には、お互いに協力しないと安心は得られないことが刻み込まれ、社会の根深い基礎になっています。

安心を作り出すのは、相手と対面し、見つめ合いながら、状況を判断する共感力です。類人猿の対人コミュニケーションを継承したもので、協力したり、争ったり、おもんばかったりしながら、互いの思いをくみ取って信頼関係を築き、安心を得る。人間だけが白目があるのも、視線のわずかな動きをとらえ、相手の気もちをよりつかめるように進化した結果です」と述べられています。

現代社会は、狩猟時代の危険や不安とは違い、原発事故や大気汚染、地震など種々の不安が大きくなっています。

また、個人として存在しやすい社会が進み、大学の学食では他の視線を遮った「ボッチ席」が現れて個食を楽しみ、クリスマスには自分で自分にご褒美を用意する若者がいるとも聞かれます。ですが、本来人間は対人コミュニケーションを通して安心を得ているように思われます。

子どもたちは保育園という集団の中で、相手の目（白目）を見て「おはようございます」「ありがとう」「ごめんなさい」などの言葉を通して、ともに過ごす時間の中で信頼関係を築き、安心を得ているのではないでしょうか。時代が変わっても人間としての基礎を育む環境こそ保育園に与えられた使命です。大事に守っていきたいとあらためて思います。

（はるか保育園T・Y）